

個人の体験に基づく風景の意味に関する研究 —長野県宮田村における大切な場所に関する アンケート調査を通して—

1X17D007-1 伊藤夏歩*

本研究は、身近な場所に関する想起内容の分析により、日常生活にて蓄積された体験記憶に基づき、個人がその場所をどう眺め、どう認識しているのかを明らかにすることを目的とする。長野県宮田村を対象に、アンケート調査にて中学生と大人の「好きな場所」や「大切な場所」と場所ごとの想起内容を収集し、「大切な場所」の地図上での可視化に加え、テキストコーディング分析を主とする想起内容の質的分析を行った。「大切な場所」と各場所の回答者の所在地属性との関係性に注目し、大切という認識の共有度は場所ごとに違いがあることを明らかにした。また、想起内容のうち感情や感覚に注目し体験に共通する特質の4つの観点を得たほか、「大切な場所」ごとの回答者の年代構成により、個人の体験に基づく認識内容にも異なる傾向があることを明らかにした。

Key Words : 個人の風景, 風景体験, 大切な場所, 中学生, 長野県宮田村

1. 序論

(1) 研究の背景と目的

現代の多くの地域では、異なる出自や職業の人々が集まり、かつての村落地域や地域共同体が維持されているような伝統的な都市と比べ、共通の目的意識や価値規範を必ずしも持たずに暮らすことができる。そこでは、風景が人々の共通の関心事にならず、気がつかないうちに失われていくことが懸念される。

一方で、親しい人との思い出や幼少期の記憶など、一個人としての体験とともに記憶される眺めや場所、つまり個人の体験としての風景は一人ひとりに存在しているはずである。このような個人の風景に着目することは、これまで潜在意識にとどまっていた身近な風景とのつながりや風景の価値を人々が自覚するきっかけとなり、視覚像としての美しさや歴史的な価値といったわかりやすい美的評価にとどまらない奥行きのある地域認識を育むことにつながると考えられる。さらに、今後の景観研究の展開の一つとされる生き生きとした風景、アクチュアリティのある風景¹⁾を考えていく上でも、個人の体験に基づく風景に関する研究が必要であると考えられる。

また、生き生きとした感覚をともなう体験は、幼少期に豊富であると考えられており²⁾³⁾、子どもを対象者に加えることで、豊かな体験の特質を捉えやすい可能性があると考えられる。

本研究で対象地とする長野県宮田村は、2017年4月から景観計画⁴⁾が施行され、景観まちづくりが進

められているほか、故郷に根差した教育が行われている⁵⁾。また、宮田方式⁶⁾に基づき現在も集落営農が継続している一方、宅地化や道路新設によりかつての風景のまとまりが失われつつある地域でもある。

そこで本研究では、住民の地域への関心が高く、村落地域としての景観や共同体を残しながらも環境の変容が進んでいる長野県宮田村を対象に、身近な場所に関して想起される体験の内容分析や個人属性との関連性の把握、さらに地図上での可視化を行う。そして、日常生活にて蓄積された個人の体験記憶に基づいて、個人がその場所をどう眺め、どう認識しているのかを明らかにすることを目的とする。

(2) 既存研究と概念の整理

a) 個人の風景に関する研究

個人の風景に注目した研究には、車窓風景の写真撮影実験を通し、個人が自分の中に思い描く風景を分析した藤澤ら⁷⁾の研究がある。地域に関する知識や経験の蓄積に基づき、見た目としての眺めにとどまらない地域を見る視点が生まれてくることが示され、個人の風景に着目する意義を示唆している。

b) 子どもを対象とした地域認識に関する研究

子どもを対象とした地域認識に関する研究は、多分野で数多く行われており、過去の経験・習慣が影響を与えているという指摘⁸⁾や居住環境との関連性の考察⁹⁾¹⁰⁾はなされているものの、具体的な体験内容やその意味の分析には至っていない。

c) 風景の人間的な意味に関する研究

山田、西は、「私」から切り離された生命の抜け

*早稲田大学創造理工学部社会環境工学科 景観・デザイン 佐々木葉研究室 学部4年

殻としての景観ではなく、人が生きていく上での風景の大切さ、風景の人間的な意味について、「なつかしさ」を手がかりとしたワークショップを通じて深く掘り下げている¹¹⁾。考察を進める上で、個人の具体的な過去の体験とともに湧き上がってくる感情の動きのなかに共通する重要な特質を見出していることは、本研究の考察に大きな示唆を与えている。

d) 「大切な場所」に関連する概念

「大切な場所」に関連する概念として、ランドルフ・T・ヘスターが示す「聖なる場所」¹²⁾を参照する。「聖なる場所」は「人々に進むべき方向、世界観、アイデンティティを与え、その土地に根付かせる」場所とされ、保全することの重要性が述べられている。また、「一人の人間の極めて個人的で文化的なアイデンティティや歴史が具体化した場として神聖化される」という指摘にあるように、宗教的であるか否かには関わらず、個人にとって重要である日常的な体験に基づく風景が具体化した場所と捉えることができる。個人の生き生きとした体験としての風景を把握する上では、この「聖なる場所（大切な場所）」と場所に関して想起される個人の体験内容を収集することが必要であると考えられる。

(3) 本研究の位置づけ

本研究は、「大切な場所」とともに想起される個人の体験や記憶を把握し、その内容や意味について質的分析を行うものである。本研究の特徴として、日常生活の風景を広く対象としており、中学生と大人の両方を研究対象とすることで個人の属性との関連性を整理すること、さらに対象地である宮田村の具体的な場所と体験の内容を関連付けて考えていくことが挙げられる。

(4) 研究の方法

本研究では、対象地に居住・就労する個人に対するアンケート調査を実施し、得られたデータの質的分析を行う。具体的には、「好きな場所」に関する既存アンケートと「大切な場所」に関する新規アンケート調査結果から、記述された場所と心情等の特徴把握、及び主体属性による比較を行う。本研究の流れを図-1に示す。

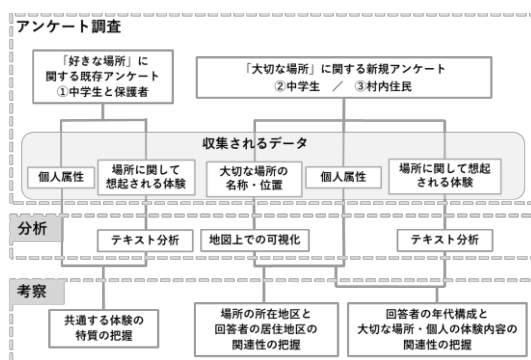


図-1 本研究の流れ

2. 対象地概要

宮田村は、長野県上伊那郡の中央に位置し、面積54.50km²、人口8983人、世帯数3480世帯である¹³⁾。太田切川左岸の平野部と、中央アルプス駒ヶ岳までの深い山地からなり、南側に太田切川、東側に天竜川が流れている。また、町1区、町2区、町3区、北割、南割、新田、大田切、中越、大久保、つつじが丘、大原の計11区の行政区から構成されている。



図-2 宮田村の位置¹⁴⁾

3. 好きな場所に関するアンケートの分析

(1) 「好きな場所」に関する既存アンケートの概要

本研究で分析対象として初めに扱うアンケートは藤井¹⁵⁾が2018年に行った、宮田村の中学生と保護者を対象とした「好きな場所」に関するアンケート（以下既存アンケート）である。既存アンケートは、宮田村の好きな場所を3つ選び、思い浮かぶ様子・思い出・選んだ理由を記入するものである。配布要領、回収率を表-1に示す。

表-1 既存アンケートの配布要領・回収率

対象者	宮田中学校1年生・その保護者
配布方法	学校にて配布
回収方法	学校にて回収
配布日	2018年10月16日
締切日	2018年10月19日
配布数	生徒・保護者 各106部
回収数	生徒88部(回収率66.7%) 保護者44部(回収率33.3%)

(2) 個人の体験に関する記述の分析の概要と方法

個人の体験としての風景を把握するため、アンケートで得られたデータのうち、場所に関して想起される場面や心情に関する自由記述を対象とし、内容の質的分析を行う。自由記述中の語や文に対して、個人の感情や感覚、体験について生成的にグルーピングしてコードを付与した。複数の意味を含む記述は該当する意味に重複して分類した。具体例を図-3に示す。また、感情や感覚については似通った項目ごとにまとめ、風景体験の意味については、表-2に示す認識構造の分類に基づき整理した。

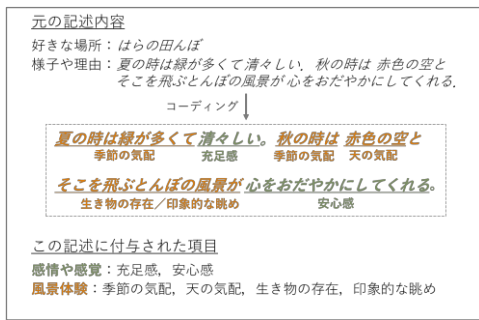


図-3 内容分析の具体例

表-2 認識構造の分類¹⁶⁾

認識構造	説明
印象評価	視対象そのものにとらえる印象評価の類型
知覚認識	視対象を通じて「私」がいる空間や気配が知覚認識される類型
意味付与	視対象を通じて人の活動を連想する類型
メタ意味	連想される人の活動の背景にある意味や作法などのメタなレベルの意味を読み取る類型

表-3 感情や感覚の分類

大分類	感情や感覚	説明
肯定的感情	安心感	安心するという感情のこと。 例：落ち着く/安心する
	充足感	心が満たされるという感情のこと。 例：すがすがしい/明るい気持ちになれる/癒される
自身の意識	地域アイデンティティ	主体にとっての富田らしさの意識のこと。 例：田舎だからこそ見える景色/素晴らしい場所だと知った
	当事者意識	自分の居場所であるという意識のこと。 例：「自分の学校」という意識が出てきた
感覚	原初性	身体感覚的な刺激を通じた場所体験の原初的な感覚のこと。 例：水の音が涼しげ/植物のにおい
	集中感	無我夢中に何かに取り組んでいたという感覚のこと。 例：練習をたくさんした/全力でプレーできた

表-4 風景体験の意味の分類

構造	風景体験の意味	説明
印象評価	幻想性	現実から切り離されたような印象をもつこと 例：神秘的に感じる/幻想的
	特別性	他にない良さを感じるといった特別な印象を持つこと 例：唯一の/この地域だけの
	公的社交	人々が交流する様子やその賑わいを連想すること 例：親子連れが笑いにぎやか/祇園祭
知覚認識	印象的な眺め	特定の時間や季節、構図の眺めを連想すること 例：その橋から見る川/中の窓から見る景色
	静けさ	人通りのなさや静かな空間の状態を連想すること 例：静か/人が通ることが少ないから楽
	山水の場	山や川、田の存在や気配を感じる 例：山がみえる/木などがたくさんあって/川遊び/広大な田
	季節の気配	季節の移ろいを感じる 例：春の桜/秋は紅葉が染まらして/夏は緑の葉が生い茂る
	天の気配	空の様子や変化を感じる 例：日の出がきれい/おもしろい形をした雲/満点の星
	生き物の存在	生き物の存在に気づくこと、意識すること 例：ホタルが舞う/カエルの声/魚が見える
	時の気配	時間の流れや変化を感じる 例：歴史を感じる/昔ながらの風情が残っていて良い
	神仏とのつながり	観音様の存在や気配を感じる 例：観音様の足元/神社もあってお願いごとをしったりできる
意味付与	親和的な場	亡くなった親せきや昔の人々の存在を意識すること 例：先祖の墓を見た/先輩方が作ってくれた伝統がある
	共同体的体験	自分が他者と一緒に何かに取り組んだことを連想すること 例：友達と宿題をした/弟とよく遊びに行つて
	共同体の拠点	共同的な活動の拠点となっていることを連想すること 例：村の人が集まる/友達との待ち合わせ
メタ意味	私の自由な選択	自分が参加するかを自由に選択できると感じられること 例：自由に入れる/誰でも気軽に立ち寄れる
	当事者性の承認	背景にある他者との承認・協関係が感じられること 例：ぼくたちのことを見まもってくれているかもしれない

(3) 風景体験の意味、感情や感覚の内容

「好きな場所」に関する様子や理由の記述は、中学生では 244 個、保護者では 123 個であった。記述内容を前述した方法により分析し、6 の感情や感覚と 17 の風景体験の意味に解釈した。定義と具体例をそれぞれ表-3、表-4 に示す。

(4) 個人の体験に共通する特質に関する考察

感情や感覚の項目に注目し、場所に関して想起される個人の体験に共通する特質について考察し、以下に示す風景体験の特質に関する 4 つの観点を得た。

a) 「私」を見守る存在や気配の認知

肯定的感情とともに抽出された項目は、中学生と保護者のどちらも「山水の場」が最も多く、中学生は「季節の気配」も比較的多い。山田、西は「私」を見守ってくれていた(いる)他者や社会、場所を含めた相対的な質として風景を捉え、風景への信頼の感覚が肯定的な感情とともに浮かび上がってくると述べている¹¹⁾。記述に直接は表れていないが、自然や他者が見守ってくれているという感覚を持っていると解釈できる。

b) 共同的集中感

無我夢中に何かに取り組んでいたという感覚を表す「集中感」は、中学生からは小学生までの幼少期の体験に関して抽出され、保護者からは抽出されなかった。いずれも「共同的体験」とともに抽出された。共同性と集中感は、安心感や充足感といった感情の動きにつながることから、人にとって極めて重要であると考えられている¹¹⁾。既存アンケートの場合、幼少期の体験において確認されたことから、「共同的集中感」は幼少期に特徴的な風景体験の重要な特質であると考えられる。

c) 活動にひもづく自然の気配の体感

中学生と保護者の両者から、自然に関する項目とともに、自身の活動を連想する佇まい「親和的な場」や自分と他者の活動「共同的体験」が抽出された。これらは、過去の「共同的体験」の後景として、自然の気配を想起しているとみなせる。その場所を訪れ、変わらない自然の佇まいを意識したとき、「あの頃の自分」を思い出すとともに当時の充足感や、安心して過ごしていた感覚がよみがえる。そのような風景体験は、人が生きていくうえでの力になると推察される。

d) 将来の行動願望

その場所での人の活動を連想し、さらに自分が将来同じ体験をしたいという願望を含む記述からは、「充足感」がともに抽出された。これらは、将来に対し期待感を持っているという点において、個人の風景体験の重要な特質であると考えられる。

4. 大切な場所に関するアンケートの分析

(1) 「大切な場所」に関する新規アンケートの概要

個人のアクチュアルな風景体験を把握するため、宮田村の「大切な場所」に関する新規アンケート調査を行った。宮田中学校の生徒を対象としたアンケート（以下中学生アンケート）と、村内住民を対象としたアンケート（以下村民アンケート）である。

中学生アンケートは、宮田村の「大切な場所」の名称と地図上での位置を書き込み、想起する場面や心情を自由記述するものである。村民アンケートは、中学生と同様の設問に、属性等に関する内容の設問を加えた。各アンケートの配布要領、回収率を表-5に示す。

表-5 新規アンケートの配布要領・回収率

	中学生アンケート	村民アンケート
対象者	宮田中学校全校生徒	宮田村全世帯
配布方法	学校にて配布	タウンプラス
回収方法	学校にて回収	郵送回収
配布日	2020年10月19日	2020年10月29日より随時
締切日	2020年10月23日	2020年11月16日
配布数	289部	3021部※
回収数	256部(回収率88.6%)	685部(回収率22.7%)

※タウンプラスにて配布可能な戸数(企業等を含む)

(2) 大切な場所の集計

回答された「大切な場所」は、中学生アンケートでは754個、村民アンケートでは1813個であった。集計の結果名称の明らかな場所は138箇所であった。中には宮田村や各地区名の回答も存在し、村や地区への思い入れの強さの表れであると考えられる。

また、家の近くの道路といった特定の名称のない場所も回答された。描写範囲の個人差はあるが、田

んぼ、りんご畑、川沿いの道の回答が重なっている。このような面としての場所の捉え方は、田園風景の広がる宮田村の人々の認識の特徴であると考えられる。「大切な場所」の分布を図-4に示す。なお、地図はアンケート用紙に掲載した範囲を示しており、20名以上の回答のあった場所について場所の名称とその回答者数を示している。

(3) 回答者の居住地区による大切な場所の集計

大切に思う場所の所在地と回答者の所在地との関係性を把握するため、回答者の所在地属性ごとの回答者数を集計した。地区により総回答者数の偏りがあるため、当該地区ごとのその場所の回答者数割合を算出し比較したところ、当該場所の所在地区住民の回答割合が際立って高い場所と、その他の場所に分類された。前者は、身近な場所として地区住民に大切に思われている場所であると考えられる。

その他の場所については、回答者数の比較的多い場所と少ない場所に分類でき、回答者の多い場所は居住地区に関わらず多くの村民に大切に思われている場所、回答者の少ない場所は個人として大切に思われている場所であると考えられる。

つまり、調査により収集された「大切な場所」は、村内住民、地区住民、個人それぞれにとって大切にされている場所に分類され、大切であるという認識の共有度は場所ごとに違いがあると考えられる。地域住民に大切に思われている場所、村内住民に広く大切に思われている場所の場所ごとの回答者数割合をそれぞれ図-5、図-6に示す。なお、図中の円グラフの赤色部分は当該場所の所在地区住民の回答割合を示しており、地区をまたぐ場合は、該当する全ての地区を着色している。

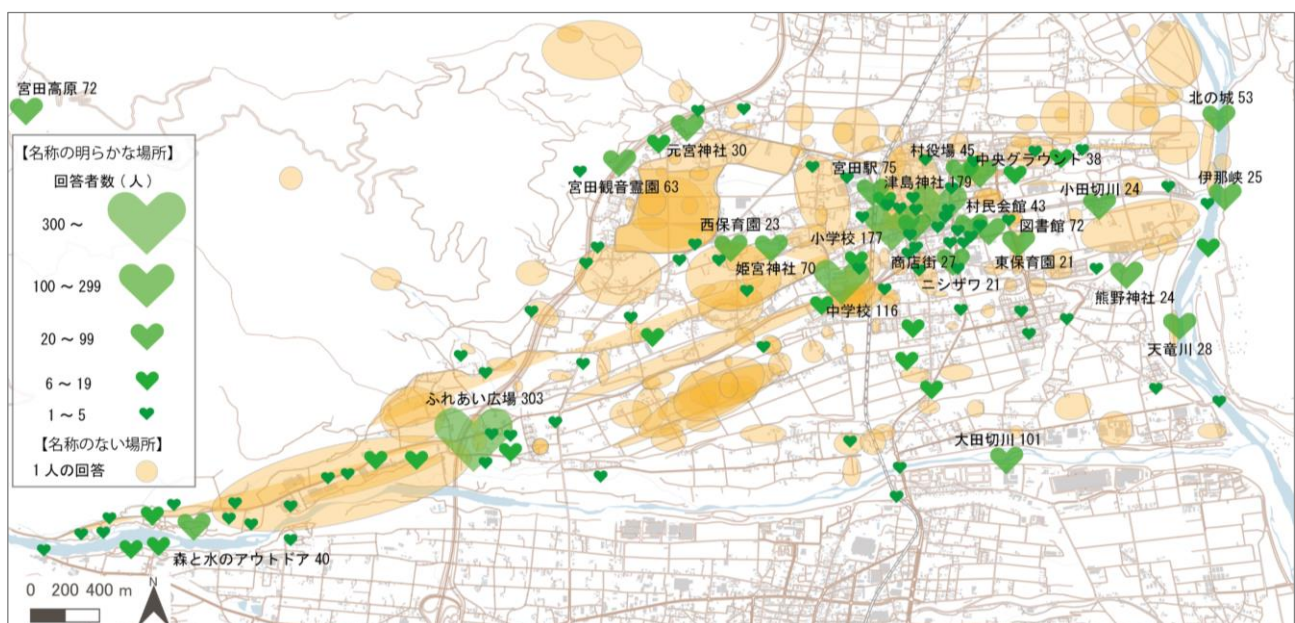


図-4 「大切な場所」として挙げられた場所の分布

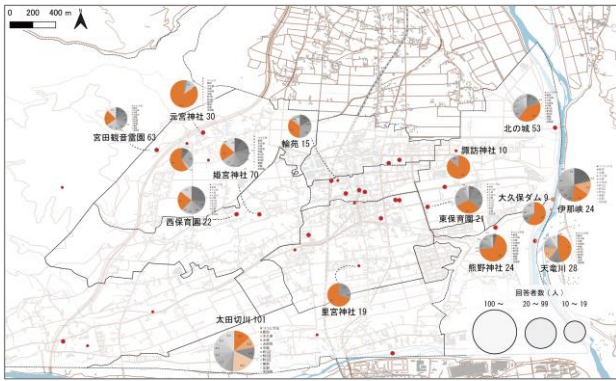


図-5 地区住民に大切に思われている場所

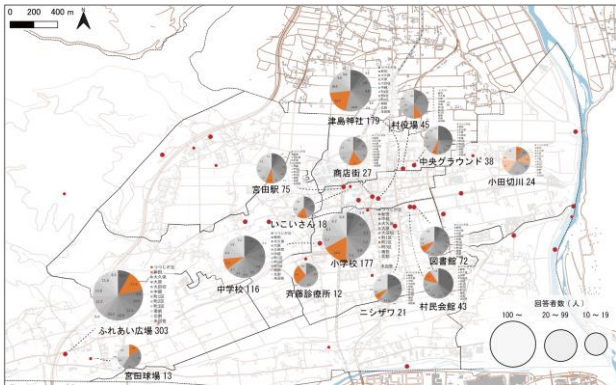


図-6 村民に広く大切に思われている場所

(4) 個人の体験に関する記述の分析

「大切な場所」に関する様子や理由の記述は、中学生アンケートでは 752 個、村民アンケートでは 1805 個であった。3.2 と同様の方法で内容分析を行い、既存アンケートにて得られた項目に追加するという手順を取った結果、感情や感覚について新たに 6 の項目を得た。その具体例と定義を表-6 に示す。

新規アンケートでは、マイナスの感情、多様な感情、他者への意識の項目が新たに抽出されている。要因としては、記述数の増加による内容の多様化に加え、「好きな場所」と「大切な場所」の位置づけの違いが挙げられる。「好きな場所」は肯定的感情が想起され、「私」にとって価値のある場所と捉えられている。一方、「大切な場所」はより多様な感情が想起され、他者や他者と「私」との関係性の中での価値を考える場所として捉えられていると考えられる。つまり、「大切な場所」は「私」やその地域にとってより本質的な場所を示すと推察される。

表-6 新規アンケートにて得た感情や感覚の項目

大分類	感情や感覚	説明
マイナスの感情	喪失感	かつて存在した風景が失われたことなどに対する空虚な感情のこと。 例：寂れてきたのを感じ残念に思います。
	不安感	今ある風景が将来失われてしまうことなどに対する不安な感情のこと。 例：歴史のある史実が失われそう。
多様な感情	喜怒哀楽	肯定的感情、マイナスの感情を含めた様々な感情のこと。 例：当時の様々な気持ちを思い出します。
	感謝	ありがたいと感じること。 例：いろんな人のために動いてくれるので、すごくありがたい
他者への意識	信頼	頼りになると感じること。 例：お世話になっている/心のより所の神社です
	継承への願い	後世にも残してほしいという思いのこと。 例：この風景はこの先ずっとのこしていきたい

(5) 回答者の年代による場所の類型化

「大切な場所」ごとの回答者の年代構成を把握するため、図-7 に示すようにクラスター分析により類似した場所ごとにグループに分けた。なお、グラフは各年代の総回答数に占める当該場所の回答数の割合を算出した後、場所ごとの値の合計が 100 となるように調整したものを示している。

さらに、類型ごとに場所に関して想起される個別の体験内容を把握するため、4.4 にて得られた項目の当該類型における抽出割合を比較し、表-7 に示すように回答年代の傾向、及び体験内容の特徴を考察した。風景体験の意味、感情や感覚の項目の抽出割合の類型間の比較をそれぞれ図-8、図-9 に示す。以上より、場所ごとに回答者の年代構成には異なる傾向があることに加え、個別の体験に基づく場所の認識内容にも違いがあることが明らかになった。

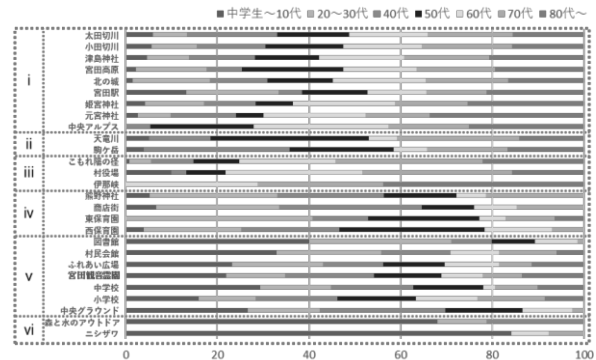


図-7 クラスター分析による場所の分類

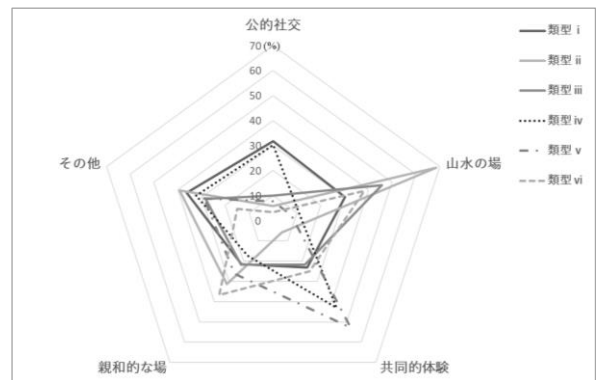


図-8 風景体験の意味の抽出割合の比較

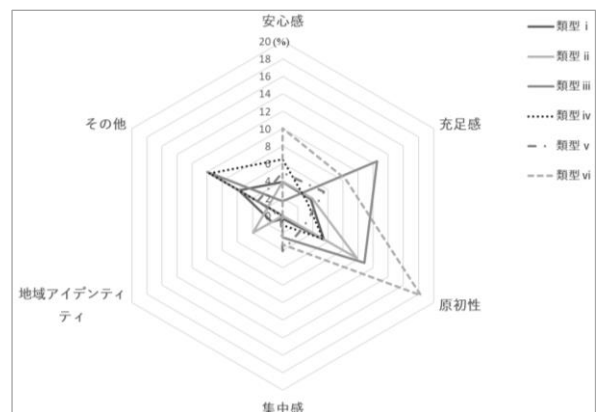


図-9 感情や感覚の抽出割合の比較

表-7 類型ごとの回答者年代と体験内容の特徴

類型	特徴
i	多世代が選択し高齢者に選ばれやすい場所 人々の賑わい、中でもお祭りを印象的に捉えている場所と、山や川、田畑の存在を連想する場所で構成されている。そして、それらを宮田村らしさとして認識している傾向がある。
ii	40代から70代に選ばれやすい場所 山や川の存在を連想する場所であり、身体感覚的な原初的質と共に記憶されている。加えて、それを宮田村らしさと認識している傾向がある。
iii	60代以上に選ばれやすい場所 類型iiと同様に山や川の存在を連想する場所であり原初性を伴った体験である傾向にあるが、より充足感を感じられるような場所である。
iv	20代から50代に選ばれやすい場所 人々の賑わい、中でもお祭りでの人々の賑わいを印象的に捉えている場所や、我が子、孫や地域の人との体験を想起する場所である。
v	多世代が選択し比較的若者に選ばれやすい場所 共同的な体験、中でも子どもや友人との体験を想起する場所であり、子どもたちの賑わいを印象的に捉えている場所である。また、懸命に取り組んでいたという感覚を伴う体験が想起される場所である。
vi	中学生に選ばれやすい場所 山や川や田畑を連想し、他者との体験も数多く含まれる場所である。また、視覚に限らず身体感覚を伴う体験や、懸命に取り組んでいたという感覚を伴う体験が想起される場所である。

5. 結論

(1) 本研究のまとめ

本研究では、長野県宮田村を対象地とし、中学生や村内住民を対象とした「好きな場所」と「大切な場所」に関するアンケートを用いて、場所に関して想起される個人の体験内容の質的分析を行い、表-3、表-6に示す12の感情と感覚、表-4に示す17の風景体験の意味の項目に整理した。

その後、個人の体験に共通する体験の特質を把握するため、「好きな場所」に関する想起内容から抽出された感情や感覚の項目に注目したところ、3.4に示すように個人の体験に共通する重要な要素として4つの観点を得た。

続いて、具体的な場所と紐づけた個人の体験内容の実態を把握するため、まず「大切な場所」の分布を図-4に示すように地図上に可視化した。その際、「大切な場所」と回答者の所在地属性の関係に注目したところ、村内住民、地区住民、個人それぞれにとって大切に思われている場所の3つに分類され、場所ごとに大切であるという認識の共有度の違いがあることを明らかにした。

そして、質的分析にて抽出された項目を用いて「大切な場所」ごとの個人の体験内容の考察を行い、

場所ごとの回答者の年代構成に注目し「大切な場所」を4.5に示すように6つに類型化した。その後、類型ごとに場所に関して想起される個人の体験を比較した結果、表-7に示すように、場所により大切に思う年代には異なる傾向があることに加え、個別の体験に基づく場所の認識内容についても違いがあることを明らかにした。

(2) 今後の展望

本研究では、場所に関して想起される個人の体験の内容分析を通じ、日常生活の中で蓄積された個人の眺めや行為の記憶について属性や地図上での位置と紐づけながら把握している。一方、着目した属性は居住地区と年齢にとどまっている。職種や幼少期を過ごした環境、対象地域に暮らし始めたきっかけといったほかの個人属性と関連付けた分析を進めることにより、個人の体験に基づく風景の実態をより詳細に把握することができると考えられる。

<参考文献>

- 1) 星野裕司：親密な未知としての風景—生命論的風景論へむけた一試論—, 景観・デザイン研究論文集 No.7, pp.37-48, 2009
- 2) 高瀬唯, 劉成玉, 古谷勝則：風景イメージスケッチ手法による日常生活圏内の自然を対象とした風景体験の類型化, ランドスケープ研究 (オンライン論文集), Vol.11, pp.70-81, 2018
- 3) 青木陽二：風景画の歴史と思い出に残る風景から探る自然風景評価の発達, ランドスケープ研究, Vol.63, No.5, pp.371-374, 1999
- 4) 長野県宮田村：宮田村景観計画, 宮田村役場 建設課, p.11, 2017
- 5) 宮田村 HP_行政情報_資料室_教育委員会_総合教育会議_宮田村教育大綱を策定しました
<https://www.vill.miyada.nagano.jp/government/pages/root/archive/10480-088/10480-083/12431>, (最終閲覧日：2020年12月27日)
- 6) 宮田村 HP_仕事・産業_農業_村の農業施策_宮田方式の歴史・変遷
<https://www.vill.miyada.nagano.jp/industry/pages/root/10480-003/10480-022/10949>, (最終閲覧日：2020年1月15日)
- 7) 藤澤奈緒, 佐々木葉：風景の多元性に着目した地域認識に関する研究—鉄道の車窓風景を対象とした写真投影法実験を用いて—, 景観・デザイン研究論文集 No.8, pp.52-58, 2012
- 8) 小島周作, 服部勉, 田中伸彦, 町田怜子, 麻生恵：吉沢八景選定プロジェクトからみる都市近郊の里地里山地域における子ども達の景観認識, ランドスケープ研究, Vol.80, No.5, pp.575-578, 2017
- 9) 椎野亜紀夫：市街地および近郊地域における児童の理想とする自然環境のあり方に関する考察, ランドスケープ研究, Vol.76, No.5, pp.625-620, 2013
- 10) 建部謙治：生活空間における心象風景と地区特性との関連性—子どもの心象風景に関する研究その1—, 日本建築学会計画系論文集, Vol.565, pp.217-223, 2003
- 11) 山田圭二郎, 西研：風景の人間の意味を考える「なつかしさ」を手がかりに, 中村良夫, 鳥越皓之, 早稲田大学公共政策研究所編『風景とローカル・ガバナンス』第6章(pp.211-245), 早稲田大学出版部, 2014
- 12) ランドルフ・T・ヘスター著, 土肥真人訳：エコロジカル・デモクラシー—まちづくりと生態的多様性をつなぐデザイン—, 第5章 聖性 Sacredness, 鹿島出版会, pp.129-148, 2018
- 13) 宮田村公式サイト TOP
<https://www.vill.miyada.nagano.jp/>, (最終閲覧日：2020年12月27日)
- 14) 国土数値情報
<https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/>, (最終閲覧日：2020年7月28日)
- 15) 藤井美来：宮田村立宮田中学校の生徒の地域認識に関する研究, 早稲田大学卒業論文, 2019
- 16) 中内和, 山田圭二郎, 高橋利之, 川崎雅史：下北沢における景観体験・思いの意味に関する研究—主体間の差異に着目して—, 土木学会論文集 D3(土木計画学), Vol.74, No.2, pp.152-164, 2018